

【神奈川】有床診療所も老健も、厳しくとも地域と患者のために続けていく-村田尚彦・村田会湘南台内科クリニック院長に聞く◆Vol.2

2019年12月16日（月）配信 m3.com地域版

地域の初期救急に貢献したことで、2019年9月に神奈川県から救急医療功労者表彰を受賞した「村田会湘南台内科クリニック」（藤沢市）院長の村田尚彦氏。村田院長が運営する医療法人社団「村田会」は有床診療所だけでなく、介護老人保健施設や有料老人ホーム、デイサービスセンターを運営する全国でも珍しい形態の法人だった。2020年7月には病院も開院する予定で、村田院長は「目指してきた地域包括ケアが実現する」と手応えを話す。（2019年10月18日インタビュー、計3回連載の2回目）

▼第1回はこちら

▼第3回はこちら

——クリニックがメインの医療法人が介護老人保健施設も運営するのは珍しいです。どんな経緯だったのですか？

当院に通ってくれていた患者さんから、「まとまった土地があるから先生使ってよ」と提案されたことがきっかけです。その方は地主で、およそ3千坪（9917m²）の土地を所有していたんですね。クリニックを移転するにしても広すぎますから、それ以外にどう使えばいいか分からなかった私は当時の藤沢市医師会長に相談しました。すると、「老健がいいよ」と言われました。老健は広い土地がないとできないから誰もがやれることではないし、何より地域のニーズを満たす手段になるよ、と。

医療しかやってこなかった私はすぐにはピンと来ませんでした。医療と介護の連携がこれから重要になることはうすうす感じていましたし、まあ、人に言われるとすぐにその気になる方ですから、「よし、やってみるか」と動き出したわけです。そして、2003年にその土地に介護老人保健施設「ケアパーク湘南台」を開設して、クリニックを隣に移転させました。



村田尚彦院長

——移転と同時にクリニックを有床診療所にされたのですよね。有床診療所は採算を取るのが難しく、全国的にも減っていますが。

言われる通り、有床診療所のほとんどは赤字で、私どものところもほぼ赤に近い状況です。確かにお金のことだけ考えるとマイナスなのですが、私はそもそも地域の患者さんに安心・安全の医療を提供したい思いが強かったので、外来だけでなく入院もできる有床診療所はその一端を担えると考えました。私たちの思いを患者さんに形として伝える手段にもなり得るだろうと。

本当は病院を作れば良かったわけですが、病院開設は自治体の整備計画が関わるのでそう簡単にはできません。その一方で、有床診療所は割合すぐにできますし、見学に行った老健でも当時は有床診療所を運営しているところが多かったのです。私は呼吸器内科が専門ですから、当時認知度が高まりつつあった睡眠時無呼吸症候群の検査のために使うベッドも2床用意して、計19床を整備しました。

——有床診療所と老健によって、医療と介護の完結性が高まりそうです。

そうですね。有床診療所は病院に比べると機能は落ちるのでレスパイト入院が中心ですが、それでも大きな病院でなくても当院で良くさせられる人は十分います。ぜんそくや肺炎などの感染症の方に入院してもらうほか、家族の介護負担を軽減させる意味でも有効です。

病院から患者さんを紹介されることもあります。大きな急性期病院は経営上、在宅復帰率を気にしないといけませんが、患者さんを有床診療所に移すケースであっても在宅復帰の加算が得られるので、急性期は脱したもののすぐに自宅に戻るの難しい場合などに当院で療養していただくこともあります。

自宅と病院の中間の存在としては老健も挙げられますが、急性期病院が患者を老健に入れると在宅復帰の加算は得られないので、実際は老健には入れたがらない傾向があるように思います。有床診療所にした当時はここまで考えていませんでしたが、結果的に当法人としてはメリットが生まれました。

——そんな背景もあるとは。有床診療所と老健の間で患者が移動するケースもありますか？

はい。有床診療所に入院した後に老健に移ることがありますし、老健の入居者の具合が悪くなった場合に有床診療所に入院していただいて本格的な医療ケアを行うこともあります。老健ではリハビリと療養の双方ができるほか、特別養護老人ホームとは違って医師も在籍しているので医療的なケアもできます。私が以前から目指してきた地域包括ケアの実現には欠かせない施設です。

中でも当法人が運営する老健は医療的なサポートが充実していることが大きな特徴です。老健に在籍する6人の医師以外に、クリニックの方に私を含めて常勤2人、非常勤10人の計12人の医師がいます。老健の先生は精神科や一般内科が専門ですが、クリニックの医師は内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、整形外科をそれぞれ専門にしているので、仮に老健の先生に分からないことがあれば専門性の異なるクリニックの医師たちに相談できます。



クリニックの隣にある介護老人保健施設「ケアパーク湘南台」

——老健だけではなく有料老人ホームとデイサービスセンターを持ち、さらに2020年7月には病院もできます。

地域包括ケアを作りたい理念のもとで長くやってきましたが、これで一応の形式的な完成を見ます。病院は当院に近い藤沢市大庭（おおば）の藤沢市保健医療センターのそばに建設している最中で、病床数は72床。院名は「村田会湘南大庭病院」です。

いや、病院を作るのは大変ですね。先ほど話したように県の整備計画に基づくのでそう簡単には許可が下りないのですが、藤沢市医師会での活動などを評価されたこともあるのでしょう。行政や周囲の先生方から「村田さんのところであれば」と背中を押していただきました。

こんな風に施設をたくさん作っていると医療に詳しくない人の中には儲け主義を疑う人がいるかもしれませんが、「まずは地域の患者さんのために」という思いです。もし利益を重視して楽をしたいのであれば有床診療所は運営していませんし、病院よりも利益が上がらない老健を存続させるか否かも検討したでしょう。ですが、利益は法人全体で出していけばいいものです。安心・安全を提供するためには、たとえ経営の難しい施設があってもそこは目をつぶらなくてはなりません。

そして何より、そういった利益重視は患者さんを裏切ることになります。患者さんの中には「先生のところは有床診療所だから」「老健もあるから」と安心感を抱いて外来を受診してくれる方も多くいらっしゃるので、それで「儲

からないから止めた」となれば約束違反でしょう。もともと開業から24時間体制で外来をやっていた人間ですから、そこは誠意を見せるべきところだと思います。

◆**村田 尚彦（むらた・たかひこ）氏**

1984年、防衛医科大学卒。自衛隊富士病院などを経て1993年に開業。地域包括ケアの実現を目指して、有床診療所「村田会湘南台内科クリニック」のほか、介護老人保健施設や有料老人ホーム、デイサービスセンターも運営する。2020年7月には「村田会湘南大庭病院」をオープンさせる予定。2019年9月に神奈川県から県救急医療功労者表彰を受賞した。専門は呼吸器内科。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

